

令和4年度 第3回湖東圏域公共交通活性化協議会総会

開催日 令和5年3月27日（月）14時00分～15時15分

開催場所 彦根勤労福祉会館 大ホール

1 開 会

2 議 事

(1) 「第1号議案 令和4年度補正予算（第2号）（案）」について（資料1）

- ・ 第1号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

(2) 「第2号議案 令和5年度事業計画（案）」「第3号議案 令和5年度収支予算（案）」について（資料2-1、資料2-2、資料3）

- ・ 第2号議案、第3号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 須田課長補佐（東近江市都市整備部公共交通政策課）

- ・ 愛のりタクシーにてWEB予約システムを導入されているが、もし分かるのであれば利用者の声を聞かせて欲しい。

● 事務局

- ・ 一昨年の10月からシステムを開始しているが、直接利用者の声を聞く取り組みはできていない。ただ、平均的な利用者比べてWEB予約される方は比較的若い方が多い。
- ・ 単発でWEB予約を利用するというよりは通学や通勤等の頻繁に使う方が多い。

● 野村委員（（社）滋賀県バス協会 専務理事）

- ・ 実際に規程に基づきWEBで予約し愛のりタクシーを利用した際に、同じ停留所に私を含め利用者が3名おり、私が乗るタクシーに予約した方が乗れなかった。
- ・ おそらく、WEB予約はされていたと思われるが、乗れないことはあるのか。

● 事務局

- ・ WEB予約は乗る停留所、降りる停留所を選択すると乗れるダイヤが提案され、実際に乗りたい便を予約することとなる。そのため、予約した便に乗れないことはあり得ないと思われる。
- ・ もしかしたら、利用者の勘違いがあったかもしれない。

● 轟副会長（滋賀県立大学准教授）

- ・ 資料2-2の事業計画説明資料の中で、地域公共交通の検討が記載されているが、まずはスケジュール感を教えて欲しい。

● 事務局

- ・ 6月末～7月に開催予定の次期総会（令和5年度第1回）にて素案を提示したいと思っている。
- ・ 12月開催の第2回総会でパブリックコメントに向けた地域公共交通計画の素案を提示し承認いただければ、パブリックコメント、3月策定のスケジュールを考えている。

● 轟副会長（滋賀県立大学准教授）

- ・ どのぐらいの見直しをするかによるが、他市町では春に業者選定を行い、2月に調査結果を含めた素案の作成、交通事業者へヒアリング等をしている市町も存在する中で現在のスケジュール感で大丈夫か気になる。場合によっては分科会やワーキング等を開催し、内容を詰めた方が良いのではないかと。
- ・ 地域公共交通計画は交通資源の総動員と言われており、福祉有償運送やスクールバス、企業バス等も含めて地域公共交通をどう考えていくのかという法律の位置付けである。
- ・ また、公共交通以外の大きな枠組みの中で市民の足をどうするのかを議論している市町も存在する。来年度の単年度というスケジュールは仕方ないが、福祉、教育、商工、観光等へのヒアリングやオブザーバーも含めてきちんと計画を立てるという意見であるが、事務局としてはどう考えているか。

● 事務局

- ・ 湖東圏域には様々な交通課題が存在し、少しでも多くの課題解決に繋がるような計画にしたいと考えている。また、昨年度の総会でも議決を頂いたとおり、別の枠組みで運行していたご城下巡回バスを令和5年度から地域公共交通の一部に組み込んだりもしている。
- ・ 様々な行動を統一的な視野で検討していくことは必要であり、ご指摘のとおり非常にタイトなスケジュールと認識している。最初の素案を作成する段階で膨大な作業量となると思うため、早急に素案作成を進めていきたいと考えている。

● 轟副会長（滋賀県立大学准教授）

- ・ 途中段階でも構わないので調査結果を提示する等を行い、委員の皆様から意見を収集できるような仕組みを考えてもらいたい。

● 轟副会長（滋賀県立大学准教授）

- ・ 令和5年度事業計画にグリーンスローモビリティの活用策検討が入っているが、一方でパーク＆バスライドの社会実験が昨年で終わり、活性化協議会が引き継ぐことになっているので事業計画の中に検討する等の文言を入れておく必要があるのではないかと。
- ・ 状況によっては分科会やワーキングを設けて福祉や商工等の関係部署も入れて議論しても良いと思うが、事務局としてどう考えているのか。

● 事務局

- ・ パーク＆バスライドは令和4年度で社会実験を一旦終え、公共交通で行うかは今後の検討次第である。また、事業計画の中で特別に項目を挙げるのではなく、地域公共交通計画の中で位置付けを検討し、協議会としてどう扱っていくかを判断したいと思う。

● 轟副会長（滋賀県立大学准教授）

- ・ 地域公共交通計画の中でパーク＆バスライドを位置付けるかどうかの検討をすると理解したが、社会実験を行い、一定の方向性が確認できたので最終的に実装できるよう、継続的に検討して欲しい。

● 安藤会長（彦根市副市長）

- ・ パーク＆バスライドは彦根城の世界遺産登録を視野に入れた内容になるので、事務局が回答したよう継続的に検討する。

（３）「第４号議案 生活交通確保維持改善計画（案）」について（資料４-１、資料４-２）

- ・ 第４号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

（４）「第５号議案 令和５年度湖東圏域の公共交通計画に関するアンケート調査」について（資料５）

- ・ 第５号議案について、事務局より説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 轟副会長（滋賀県立大学准教授）

- ・ 地域公共交通計画の調査はどのようなものを検討しているのか。住民アンケート調査のみなのか。

● 事務局

- ・ 調査は住民アンケート調査のみを予定しているが、毎年実施している路線バスや愛のりタクシーの利用動向調査結果を含めて検討の材料としたいと思っている。

● 轟副会長（滋賀県立大学准教授）

- ・ タイトな中で恐縮であるが、計画を作成する中で留意して欲しい点をいくつか述べさせて頂く。
- ・ 現在のアンケート調査は居住者に対する調査だが、一方で近江鉄道の活性化協議会で議論にもなったように、湖東圏域に来訪する通学してくる人や企業に勤めている通勤者に対する状況把握も一定必要ではないか。調査を実施すべきとは言わないが、公共交通の利用者について、正利用と逆利用、日常以外の非日常の状況を把握した上で計画の中で位置付けるべきではないか。
- ・ 運送事業者（交通事業者）に対して、アンケートまたはヒアリングを実施するなど意見を収集し、持続的な公共交通を目指すべきである。
- ・ 公共交通は手段であり、利用者は病院へ行く、買い物する、学校で教育を受ける、観光する等の目的があるため、目的地での調査や状況把握を行い、計画としてどのように位置付けたかも提示した方が良い。

● 事務局

- ・ 通学や通勤の逆利用者に対し、対面でアンケート調査を実施する予定はしていない。ただし、路線バスでも逆利用を想定して運行している便も存在しているので、その便の利用状況は分析したい。
- ・ また、今回の調査票は、アンケート調査票とパーソントリップ調査票に分かれており、

パーソントリップ調査で利用者が多い施設が分かるので幅広く情報を集めて検討に役立てたい。

(5) 「第6号議案 路線バスの停留所移設」について(資料6)

- ・ 第6号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

(6) 「報告事項 愛のりタクシー停留所の名称変更」について(資料7)

- ・ 資料7について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされたが、質疑はなかった。

(7) 「報告事項 グリーンスローモビリティ社会実験の結果報告」について(資料8)

- ・ 資料8について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 轟副会長(滋賀県立大学准教授)

- ・ 今回は社会実験という位置付けであるが、今後の展望があれば教えて欲しい。

● 事務局

- ・ 今後の展望を見渡せていないが、令和5年度にも社会実験を実施予定である。
- ・ 今年度実施した彦根駅と彦根城を結ぶ経路での成果が一旦とりまとめられたため、何か別の使い方や別の可能性を探れる社会実験ができれば良いと考えている。

● 轟副会長(滋賀県立大学准教授)

- ・ 社会実験は目的があり、その目的が達成されたかを効果検証する必要がある。
- ・ 実験をして利用者がこのように利用したという結果は一定の成果であるが、アンケートや社会実験の設定の仕方も含めて、パーク&バスライドでも行っていたように費用(運賃)をどう設定できるのか等を検証してみた方が良い。
- ・ 観光以外の利用や福祉的な利用、日常と非日常の視点をどう扱いし得るのか、ビジターや地域住民の利用の仕方等、目的やターゲットをクリアにして社会実験を実施したり、アンケートを設定すると、どういう形で利用されるのか、どのような位置付けになり得るのかが踏み込めるため、社会実験に入る前に十分に検討しフレームを作っていって欲しい。具体的な取り組みに期待している。

(8) その他

- ・ 次回の令和5年度第1回総会は6月末から7月を予定しており、詳細は後日調整する旨の連絡があった。

3 閉会

以上